

黒部川 赤木沢

2014年9月14日(日)～15日(月)

メンバー：ヤマメ(リーダー)、池田T

赤木沢は森の中の開けた明るい沢。連続するナメ滝は天国への階段のように思えた。
高巻きた滝は2カ所だけ。他は楽々直登できた。水流が途絶えた後のツメは浅い笹原と草原。
最近は倒木などで荒れた沢を目にすることが多いが、ここはいつまでもこの美しさを保ち続けてほしい。

9/14(日) 晴れ

前夜に浜松を出発。東海北陸道を飛騨清見で降りて、高山・国府・上宝・神岡を經由して飛越トンネル手前の神岡新道登山口の駐車場に到着。

朝6時に有峰林道の東谷ゲートがオープン。折立までは45分の道のり。有峰湖を眺めつつ、周囲の自然林が濃い林道ドライブを楽しむことが出来た。

折立まであと600mという所で路側に停まっている車列が見えた。まさかと思ったが、駐車場に入りきれない車の列だった。

我々が停まったのは折立橋の上だったが、他に停める所は無く（臨時駐車場も満車）、そこに車を置いて出発した。



延々と続く駐車の流れ

登り始めるとじきに傾斜がキツくなる。今回は小屋泊まりなので荷物が軽くて助かる。
標高1700mぐらいまではブナが、そこから上はダケカンバが見られるが、数は少なめである。
標高1869mの三角点はベンチがある休憩ポイント。このあたりから視界が広がるようになる。



標高2000mあたりのなだらかな登り



太郎平小屋の前の広場は賑やかだった。我々も一息ついた。

太郎平小屋を後にして薬師沢に向かって下っていく。青紫が鮮やかなリンドウが秋の気配を感じさせた。薬師沢の右俣と左俣の出会いを過ぎると道はなだらかになり、木道が整備されている。地形図には無い小さな沢が何本か横切っており、湿原のような区間もある。



草紅葉が美しい

それまでなだらかだった道が急な下りになると薬師沢小屋は近い。
薬師沢が黒部川に出合う所に小屋は立っていた。我々は大部屋のA区画を割り当てられた。
一人当たり一畳のスペースである。窓からは薬師沢の流れが見える。快適な一晚を過ごせた。
ちなみに夕食は豚バラ肉の煮込みがメイン。白米のご飯がとても美味かった。



2 階のテラスでビールを飲んでくつろいだ。夜は天の川が見えた。

<タイム> 東谷ゲート6:00＝折立橋6:45～6:55－折立登山口7:05～7:12－太郎平小屋
10:40～10:55－薬師沢小屋12:50

9/15(月) 曇り時々晴れ

5 時半に朝食を頂いて 6 時に出発。小屋から沢には梯子を使って降りる。しばらくは河原歩きが続く。



しばらくは左岸を歩く



数回の渡渉あり。水深はヒザ程度であった。

魚止めの滝は左岸を小さく高巻いた。ヤブの中に明瞭な踏み跡があった。
河原に降り立つと赤木沢の出会いに近い。聞いていた通り、翠色の大きな淵であった。
脇では先行の3人パーティーが休憩していた。彼らは豊川山岳会で、この後、下山するまで相前後して進んだ。



正面奥が赤木沢の始まり。

淵に入って赤木沢の出会いを観察。小さな滝が淵に注ぎ込んでいる。
真夏であれば淵を泳いで滝に取り付くことも可能と思われたが、今日は水が冷たくて泳ぐのはとても無理。
一方、黒部川の本流からは堤防のような豪快な滝が勢いよく淵に流れ込んでいる。



こちらは黒部川の本流。こちらもいつか行ってみたい。

左岸に渡った後、踏み跡を登って下り、赤木沢に降り立つ。
じきに廊下のようなナメ。さらに進むと緩やかな階段状のナメ滝になった。
こんな風景は他の沢では見たことが無かった。



緩やかな階段状のナメ滝



沢の周囲が開けているので曇りでも明るい



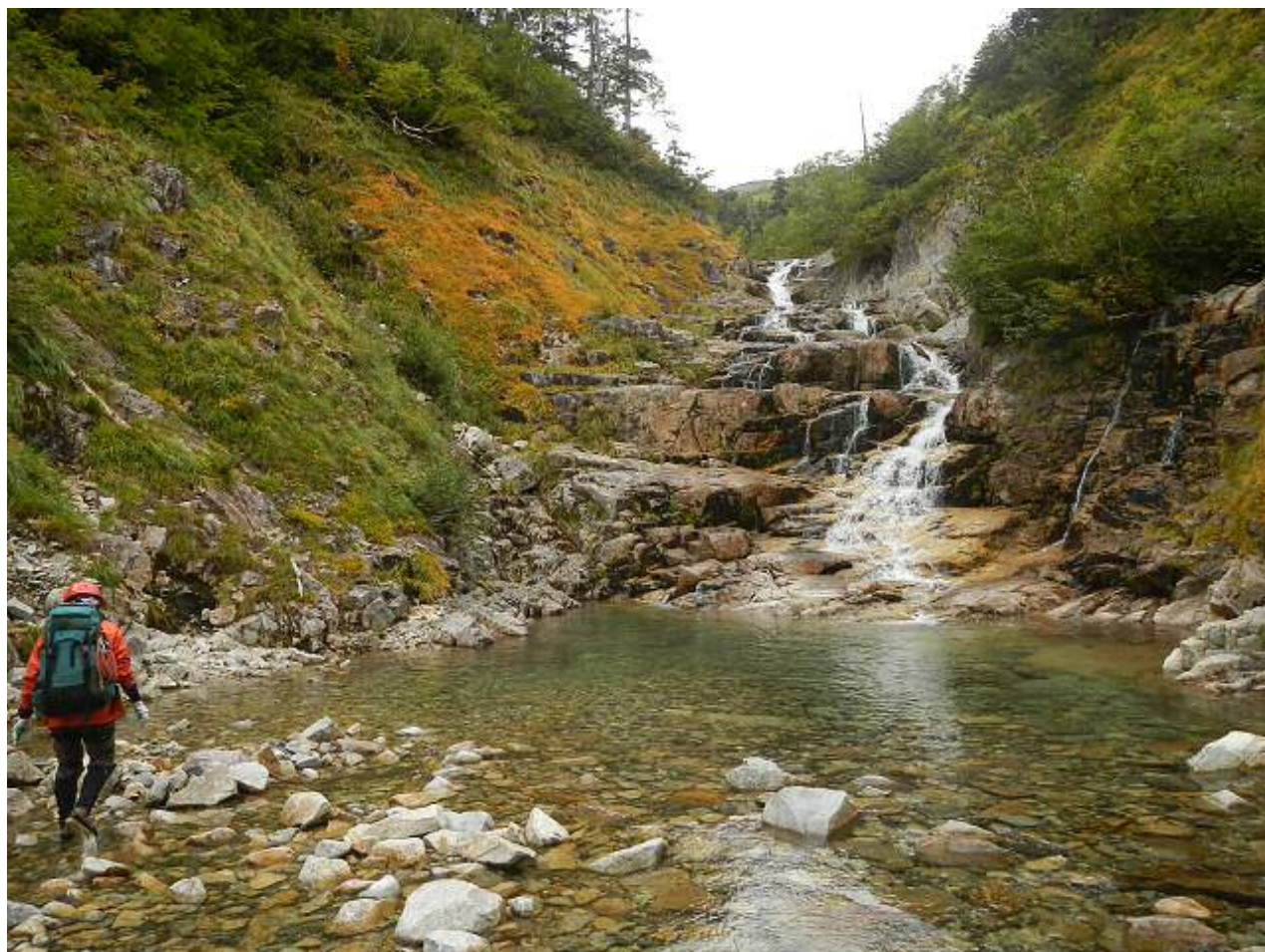
緩やかな滝が奥へと続く



時折現れる翠色の淵。水流の向かって右側を直登した。



斜滝とナメが交互に続く



沢の奥に目指す稜線が見えてきた



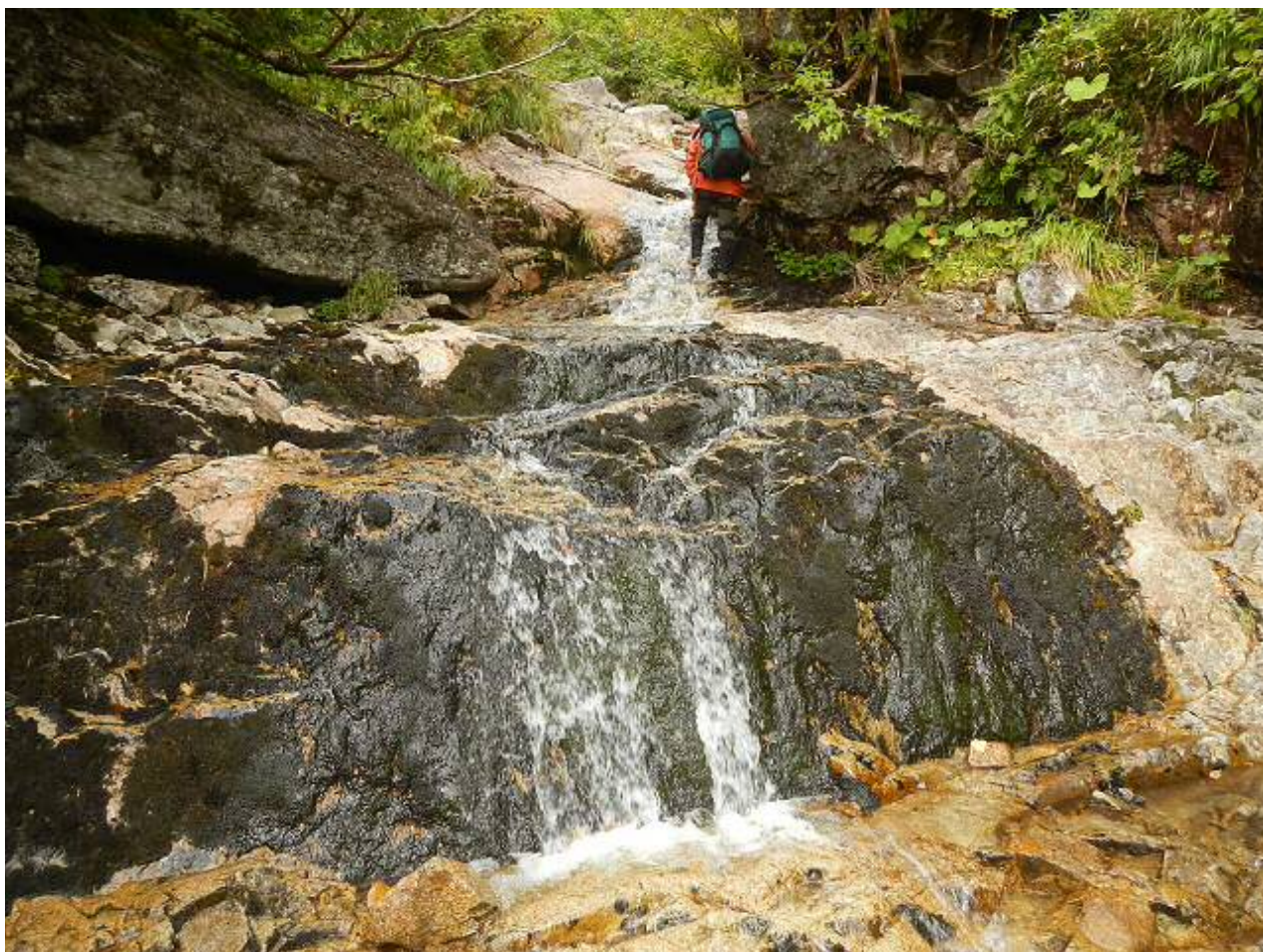
赤木沢で最大の滝

高巻きは滝の右脇の岩場をフリーで登った。岩登りに慣れていないメンバーがいる場合は左岸を20m程度戻ったルンゼ状の所から高巻きの踏み跡に入ったほうが良い。



高度感と露出感があるが、階段状なので岩登り経験者であれば問題ない。

大滝を越えると遡行の終わりは近い。中俣乗越方面と赤木岳方面に分かれる二股では後者を選択した。前者は緩やかなナメ滝になっていたのが魅力を感じたが、少し大回りになるため、計画通り最短距離で赤木岳に向かった。



沢の幅が狭くなって楽しい遡行の終わりが近いことを感じさせた

標高2300mあたりで水流は途絶えたので休憩を兼ねて登山靴に履き替える。
背の低い笹原がやがてチングルマが風に揺れる草原になった。ハイマツを若干濃いだのち主稜線に出た。



正面のピークを目指した

上の写真の右側のピークに登って登頂を祝った。豊川山岳会の3人組もすぐに来てお互いに記念撮影。

ただし下山後に確認したら地形図上の赤木岳のピークはここではなく、300mほど進んだ所のなだらかな丘の上であった。

そこには標柱らしいものは無く、通り過ぎてしまった・・

太郎平までの道は概ね緩やかであるが、一部の登山道が荒れているのが気になった。

オーバーユースで裸の地面が広がり、大雨が降った際の水流で浸食されたとみられる。

自分もユーザーの一人であるので心苦しいが、このままだと浸食はさらに進むと思われるので原状回復の工事が望まれる。



正面は太郎平小屋。ようやく戻ってきた。

<タイム> 薬師沢小屋6:00－赤木沢出合7:15～7:25－大滝9:00－遡行終了10:00－赤木岳11:30－北ノ俣岳12:00－太郎平13:30～13:50－折立16:15



以上